

## 実体経済の動向

◇生産はわずかながら増加、出荷は減少、在庫は微増

(生産—増加)

7月の鉱工業生産(季節調整済み、前月比<sup>(注)</sup>、速報)は、+0.2%と前月(+2.4%)に続き増加した(前年同月比+0.7%)。

(注) 以下増減率は特に断わらない限り前月比または前期比(物価を除き季節調整済み)。

7月の動きを財別にみると、建設財、耐久消費財が増加し、生産財が横ばいとなつたが、他の財は減少した。

すなわち、耐久消費財は、電気冷蔵庫、電気洗濯機等民生用電気機械や輸出好調の暖ちゅう房熱機器(小型石油ストーブ等)を中心に大幅増加となり、また建設財もセメント、道路用コンクリート製品等公共事業関連品目やH形鋼、建設用金属製品(鉄骨、アルミサッシ)を中心に3か月連続の増加となった。この間、生産財は一般機械部品(ス

チールチェーン等)、プラスチック、化学肥料等が増加したものの、鉄鋼素製品、その他窯業製品(固型電極、耐火れんが等)、化学繊維などが減少したため、全体では横ばいにとどまった。

一方、一般資本財は、化学機械、金属加工機械、産業用電気機械等の減少を主因に、また、資本財輸送機械も小型自動車、普通自動車を中心と減少した。また、非耐久消費財も、家庭用合成洗剤、軽金属板製品等の減少から5か月振りの減少となった。

(出荷—減少)

7月の出荷(速報)は、-0.9%と前月増加(+2.3%)のあと減少した(前年同月比-1.5%)。

7月の動きを財別にみると、耐久消費財を除き各財とも減少した。

すなわち、一般資本財は農業用機械、通信機械等が増加したものの、化学機械、産業用電気機械、金属加工機械等が輸出不振を主因に落込みをみたため、全体でも、かなりの減少となった。また、資本財輸送機械も、普通自動車等の増加にもかかわらずトラック、船舶等の減少が響き減少した。さらに、建設財も公共事業前倒し効果の顕現

### 鉱工業生産の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減(-)率・%)

	56年		57年		57年		
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	5月	6月	7月
鉱工業 指 数	147.8	150.7	149.2	146.8	144.8	148.3	148.6
前 期(月)比	2.1	2.0	-1.0	-1.6	-1.7	2.4	0.2
業 前年同期(月)比	4.5	5.7	3.6	1.5	1.3	1.3	0.7
投 資 財	2.6	0.8	0.5	-3.6	-3.3	4.2	-2.0
資 本 財	2.6	1.4	1.1	-3.8	-4.5	4.5	-2.6
同 (輸送機械を除く)	2.5	1.5	1.5	-2.9	-4.5	4.3	-1.9
輸 送 機 械	2.5	-0.2	0.0	-5.7	-4.1	4.9	-5.0
建 設 財	2.8	-0.2	1.9	-2.4	0.9	2.3	0.7
消 費 財	2.1	3.8	-1.5	0.1	0.9	1.6	2.8
耐 久 消 費 財	2.0	4.8	-1.3	-1.4	-0.3	0.1	7.3
非耐 久 消 費 財	2.4	2.0	-1.7	2.3	2.7	2.4	-1.8
生 産 財	1.6	1.3	-1.2	-1.8	-2.7	1.2	0.0

(注) 通産省調べ。57年7月は速報。

前年同期(月)比は原指数による。

### 鉱工業出荷の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減(-)率・%)

	56年		57年		57年		
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	5月	6月	7月
鉱工業 指 数	141.2	142.1	140.5	138.3	137.1	140.3	139.1
前 期(月)比	2.2	0.6	-1.1	-1.6	-0.3	2.3	-0.9
業 前年同期(月)比	4.9	4.3	2.1	0.2	0.7	0.8	-1.5
投 資 財	2.9	-0.2	0.2	-4.2	-2.3	3.9	-2.7
資 本 財	2.5	-0.1	1.6	-4.9	-3.7	3.6	-3.1
同 (輸送機械を除く)	1.8	0.7	2.0	-4.3	-1.6	3.2	-2.0
輸 送 機 械	6.2	-3.7	-0.7	5.0	-8.1	5.0	-3.9
建 設 財	3.1	0.2	-4.1	1.4	0.9	4.3	-1.1
消 費 財	2.1	2.1	-1.9	0.8	3.8	-1.0	0.9
耐 久 消 費 財	2.0	4.1	-1.5	2.8	0.6	3.3	4.3
非耐 久 消 費 財	1.7	0.9	-1.9	3.9	6.3	1.0	-2.9
生 産 財	1.7	0.3	-1.3	1.3	-2.0	3.2	-1.0

(注) 通産省調べ。57年7月は速報。

前年同期(月)比は原指数による。

から窯業製品が増加したものの、普通鋼熱間鋼管、亜鉛メッキ鋼板等を中心に前月大幅増加のあと反動減となり、生産財も、鉄鋼素製品、冷間仕上鋼材、非鉄地金、繊維原料等の落込みを主因に減少した。

この間、耐久消費財は、暖ちゅう房熱機器、時計、ラジオ受信機等を中心に前月減少のあとかなりの増加となった。

#### (在庫——微増)

7月の在庫(速報)は、+0.1%と前月横ばいのあと微増(前年同月比+2.7%)となり、在庫率指数(50年平均=100)も92.5と前月低下のあと小幅ながら上昇した(+0.1ポイント)。

7月の在庫増減を財別にみると、資本財輸送機械、生産財は減少したが、一般資本財、建設財、耐久消費財が増加した。

すなわち、一般資本財は農業用機械、パッケージ型エアコン、金属加工機械等の増加から6か月連続の増加となったほか、建設財もアルミサッシ等建設用金属製品、普通鋼熱間鋼管、セメントなどを中心に小幅ながら増加した。また耐久消費財は、天候不順の影響を受けたエアコン(ウィンド

型、セパレート型)の在庫積上りを主因に大幅増加となった。

この間、生産財はこれまでの減産効果の浸透もあって、非鉄地金、化学製品、紙・板紙、合織等を中心に2か月連続の減少となった。また資本財輸送機械もトラックは増加したものの小型・普通自動車の減少から全体でも微減となった。

#### (民間設備投資——関連指標はいずれも減少)

7月の機械受注(船舶・電力を除く民需)は、-3.3%と2か月連続の減少となった(前月-25.9%、前年同月比-6.8%)。業種別にみると、製造業からの受注は、鉄鋼、石油を中心に大幅減少となった。一方、非製造業では運輸、建設、金融業を中心に増加した。

また、7月の建設工事受注(民間分、速報)は-1.3%と前月(-7.1%)に続き減少した。

さらに、一般資本財出荷も、-2.0%と前月増加(+3.2%)のあと減少した(前年同月比-2.5%)。品目別にみると、土木建設機械(トラクター等)、農業用機械(コンバイン等)などが増加したものの、金属加工機械、産業用電気機械、クレーン、エレベーター、標準変圧機等が減少した。

### 鉱工業在庫の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)末比増減(-)率・%)

	56年 (期末)		57年 (期末)		57年		
	9月	12月	3月	6月	5月	6月	7月
鉱業	指 数	113.6	113.4	116.2	118.0	118.0	118.1
工 前期(月)末比	-2.3	-0.2	2.5	1.5	0.4	0.0	0.1
業 前年同期(月)末比	-0.4	-1.2	0.4	1.5	2.2	1.5	2.7
投 資 財	-0.3	-1.0	3.9	-0.4	-0.2	-0.1	0.5
資 本 財	2.3	-1.4	4.7	0.5	-0.6	1.7	0.9
同 (輸送機械) (を除く)	0.2	-1.6	2.7	5.7	1.6	1.9	0.5
輸 送 機 械	5.8	-1.3	8.8	-8.2	-4.1	0.6	-0.1
建 設 財	-2.9	-2.6	3.6	-1.7	0.6	-2.2	0.9
消 費 財	-2.9	-1.7	0.1	1.1	-1.5	0.9	1.0
耐 久 消 費 財	-1.3	-1.2	1.5	0.9	-1.3	2.7	2.7
非耐久消費財	-2.8	-3.3	3.8	2.2	-0.5	-0.8	0.0
生 産 財	-2.9	1.0	4.1	3.0	1.9	-0.4	-0.5

(注) 通産省調べ。57年7月は速報。

前年同期(月)末比は原指数による。

### 需要先別機械受注・建設工事受注の推移

(季節調整済み、月平均、単位・億円)

	56年			57年			57年		
	10~12月	1~3月	4~6月	5月	6月	7月	5月	6月	7月
機 械 受 注	民 需	5,778 ( 6.3)	6,307 ( 9.2)	5,442 (-13.7)	6,626 ( 42.2)	5,039 (-24.0)	5,153 ( 2.3)		
	同 (船舶・電力を除く)	4,571 ( 2.8)	4,484 (-1.9)	4,476 ( 0.2)	5,478 ( 40.8)	4,061 (-25.9)	3,927 (-3.3)		
	製 造 業	2,551 ( 9.0)	2,545 (-0.2)	2,473 (-2.8)	2,927 ( 36.2)	2,343 (-19.9)	2,097 (-10.5)		
	非 製 造 業	3,075 (-1.7)	3,830 ( 24.6)	2,960 (-22.7)	3,588 ( 36.0)	2,654 (-26.0)	3,052 ( 15.0)		
	同 (船舶・電力を除く)	2,047 (-2.8)	1,958 (-4.3)	1,984 ( 1.3)	2,579 ( 54.9)	1,710 (-33.7)	1,838 ( 7.5)		
建設工事受注	民 間	4,483 ( 6.5)	4,535 ( 1.2)	3,877 (-14.5)	4,154 ( 14.7)	3,858 (-7.1)	3,807 (-1.3)		

(注) 機械受注は経済企画庁調べ。建設工事受注は建設省調べ(43社ベース)。カッコ内は前期(月)比増減(-)率(%)。

### ◆小売商況——進一退

7月の全国百貨店売上高(通産省調べ、前年比、速報)は、天候不順等から夏物商品の動きが鈍く、+2.3%と低い伸びにとどまった(前月+4.8%)。また、8月入り後の都内百貨店売上高も、秋物衣料の出足が鈍いなど引き続き伸び悩み気味に推移している模様である。

8月の耐久消費財の販売状況をみると、家電製品は天候不順から夏物商品(エアコン、扇風機)が不振に終った一方、VTR、電子レンジが引き続き高い伸びを示したほか、カラーTV、掃除機もまづまずの売れ行きをみるなど品目により日々の動きを示した。

一方、乗用車新車登録台数(除く軽、前年比、速報)は夏季ボーナス時の拡販の反動もあり、-0.5%と4か月振りに小幅ながら前年水準を下回った(前月+8.0%)。

### ◆商況の基調——幾分上昇

8月の商品市況は、繊維(ポリエステル、綿糸)が続落、砂糖も下落したものの、一方で化学製品(ポリエチレン、塩ビ)、紙パ(中芯原紙)が下げ止ったほか、鋼材(H形鋼、山形鋼)、非鉄(銅、亜鉛、アルミ)、石油製品、製材・合板が上伸するなど、全体として幾分上昇気味となった。これは、

- ① 生産抑制によりメーカー一段階の在庫圧迫が徐々に軽減化しつつあること(山形鋼、化学製品、紙パ等)、
- ② 長期にわたる為替円安により安値輸入玉の流入圧力が緩和していること(ポリエチレン、塩ビ)、また一部品目では商社の輸入抑制措置の奏功等から荷もたれ感が薄らいでいること(製材)、
- など主として供給面の要因によるものであるが、このほか、
- ③ 中堅メーカーの経営破綻に伴う供給不安から仮需が活発化したこと(合板)、
- ④ 盆明け以降の官公需増(H形鋼、塩ビ)も幾分影響。

### (卸売物価——小幅上昇)

8月の卸売物価は、前月比+0.3%と前月(同+0.6%)に続き上昇した(前年同月比+1.0%)。国内品・輸出入品別にみると、国内品が、石油製品(ガソリン、灯油、A・B重油等)、鉄鋼(冷延広幅帶鋼、熱延広幅帶鋼)の値上げから+0.3%上昇したほか、輸入品も、為替円安から+0.9%の上昇となった。一方、輸出品は、鉄鋼(油井用鋼管、特殊配管用鋼管)、輸送用機器(二輪自動車、普通乗用車)等の契約価格低下から、-0.6%と下落した。この間、加工段階別にみると、素原材料が為替円安から+0.8%と上昇したほか、中間品も燃料・動力(A・B重油、軽油)、建設材料(製材品、普通合板)の値上がりを主因に+0.4%の上昇となった。また、完成品も消費材(ガソリン、灯油)、資本財(天井走行クレーン、ボイラー等)とともに小幅ながら上昇したため+0.3%の上昇となった。

### (消費者物価——8月<東京都区部、速報>は+0.8%の上昇)

8月の消費者物価(東京都区部、速報)は、前月比+0.8%の上昇となった。これは、生鮮食品を除くベースでは、夏物バーゲンに伴う被服の値下り等から-0.3%と下落したものの、生鮮食品(野菜等)が天候不順等から+18.7%と急騰したことによるもの。なお、前年比上昇率も+4.0%に上昇した(前月同+2.0%)。

### ◆経常収支の黒字幅は幾分縮小

7月の国際収支をみると、輸出・入とも減少するなかで貿易収支はほぼ前月並みの黒字となったが、貿易外・移転収支の赤字幅がやや拡大したため、経常収支の黒字幅は14.1億ドルと前月(17.4億ドル)比幾分縮小した(貿易収支季調後でも、経常収支の黒字幅は7.7億ドルと前月<10.2億ドル>比縮小)。この間、長期資本収支は外国資本が証券投資を中心にまずまずの流入をみたものの、本邦資本が引き続き高水準の流出となったことから全体では19.6億ドルと前月(20.2億ドル)並みの大幅流出超となり、この結果、総合収支は5.0億ドルの赤字となった(前月同14.7億ドル)。

## 卸売物価指數の推移

(前月&lt;期&gt;比騰落率・%)

	ウェイト	57年		57年					最近月の 前年 同月比
		1~3月 平均	4~6月 平均	4月	5月	6月	7月	8月	
総 平 均	1,000.0	0.2	0.3	0.3	- 0.6	0.2	0.6	0.3	1.0
食 料 品	140.9	- 0.4	0.2	0.3	- 0.4	- 0.2	- 0.1	- 0.2	- 0.5
非 食 料 農 林 産 物	18.9	1.7	- 0.9	0.3	- 2.1	- 0.2	1.0	0.4	- 1.2
織 繊 製 品	62.9	0.9	- 0.3	0	- 0.2	0.2	- 0.1	0.1	1.8
製 材・木 製 品	33.6	1.4	- 3.1	- 0.8	- 1.4	- 1.4	0.9	1.1	1.7
パ ル ブ・紙・同 製 品	28.9	0.4	- 0.2	0.1	- 0.5	- 0.4	- 0.9	- 0.8	- 2.0
金 属 素 材	12.6	2.1	4.7	1.4	0.2	1.0	2.5	1.2	6.3
鉄 鋼	80.7	0.2	0.7	0.5	- 0.8	0.5	0.3	0.2	0
非 鉄 金 属	26.1	- 2.7	- 2.5	0.6	- 1.9	- 2.5	2.3	1.8	- 6.0
金 属 製 品	37.0	- 0.2	0.1	0.1	- 0.1	- 0.2	- 0.1	- 0.1	- 1.1
電 気 機 器	73.3	0.3	- 0.2	- 0.1	- 0.3	0	0.5	0.1	- 0.2
輸 送 用 機 器	74.0	0.8	0.5	0.2	- 0.8	1.4	0	- 0.1	1.2
一 般・精 密 機 器	95.7	0.4	0.5	0.2	- 0.2	0.1	0	0.2	0.9
化 学 製 品	91.1	0.2	- 1.0	- 0.3	- 0.6	- 0.5	- 0.6	- 0.2	- 1.6
石 油・石 炭・同 製 品	102.2	0.7	1.8	1.1	- 1.0	1.5	1.6	1.7	6.6
窯 業 製 品	30.5	0.1	0.4	0.1	0	0.3	0	0	0.9
電 力・ガ ス	25.5	0.1	0.4	0.3	- 0.2	0.3	5.3	0.3	1.8
雜 品 目	66.1	- 0.5	0.4	0.3	- 0.2	0.1	- 0.1	- 0.6	- 0.6
工 業 製 品	816.4	0.2	- 0.1	0.2	- 0.5	0	0.2	0.4	0.5
大 企 業 性 製 品	579.9	0.1	0.1	0.2	- 0.4	0.1	0.2	0.4	0.5
中 小 企 業 性 製 品	214.6	0.5	- 0.5	- 0.1	- 0.3	- 0.3	0	0.2	0.5
非 工 業 製 品	158.1	0.8	1.4	0.9	- 1.2	1.3	1.2	0.3	3.5
国 内 品	801.9	0	- 0.1	0.1	- 0.1	- 0.3	0.2	0.3	0.4
輸 出 品	94.2	1.5	1.5	0.8	- 2.1	2.4	0.5	- 0.6	1.2
輸 入 品	103.9	1.2	1.9	1.2	- 2.1	2.3	2.3	0.9	5.0

(注) 日本銀行調べ。

なお、7月末の外貨準備高は257億ドルと昨年11月以来8か月振りの増加をみた(前月末比+1.8億ドル)。

## (輸出——数量は増加)

7月の輸出(国際収支ベース、季節調整済み)は-0.7%(前月-3.2%)と3か月連続の減少となつたが、数量(通関)ベースでは+3.8%と前月(+2.0%)に続き増加をみた。品目別(通関、数量ベース)には、二輪自動車、テレビ等が輸出先市場における現地在庫調整の影響等から減少したが、事務用機器等が引き続き堅調に推移したほか、鉄鋼が

棒鋼を中心に増加となり、また自動車、合織糸等も当月は増加をみた。

なお、8月の輸出信用状接受高(季節調整済み)は-2.6%と前月増加のあと再び減少した。品目別には鉄鋼、自動車が増加した反面、織維製品、化学製品等が減少をみた。

## (輸入——数量は微増)

7月の輸入(国際収支ベース、季節調整済み)は、-0.5%(前月-3.5%)と6か月連続の減少を示したが、数量(通関)ベースでは+0.7%の微増となった。品目別(通関、数量ベース)には鉄鉱

## 消費者物価指数の推移

(前月&lt;／期)比騰落率・%)

		ウェイト	57年		57年			最近の 前年 同月比
			1~3月 平均	4~6月 平均	6月	7月	8月	
			(100.0)	(92.7)	(0.3)	(1.1)	(0.1)	(* 4.0)
東京	総合	100.0	0.3	1.1	0.1	-0.7	* 0.8	* 4.0
	生鮮食品を除く総合	92.7	-0.1	1.5	0.2	-0.4	* -0.3	* 3.4
	(生鮮食品)	(7.3)	(5.6)	(-3.5)	(-2.9)	(-5.7)	(*(-18.7))	(*(-12.7))
	食料	37.6	1.3	0	-0.3	-0.8	* 3.3	* 4.7
	住居	7.1	0.8	1.1	0.2	0.2	-0.3	2.6
	光熱・水道	5.5	2.4	0	0	0	0.2	8.1
	家具・家事用品	4.7	0.2	-1.0	0.2	-0.4	0.5	1.1
	被服および履き物	9.4	-5.0	4.3	1.0	-5.0	-5.7	4.1
	保険医療	3.4	0.4	0.2	0	0	0.1	1.1
	交通通信	9.2	0.8	1.6	0.2	0.2	0.5	4.9
季調済	教育	6.0	0	5.8	0	0	0	5.9
	教養娯楽	11.7	0	1.0	-0.1	0.8	* 0.8	* 2.1
	諸雜費	5.4	0.3	0.9	0	-0.3	0.1	1.7
全	総合	100.0	0.7	0.1	0.8	-0.7	1.9	—
	生鮮食品を除く総合	92.7	0.8	0	0.3	0	0.6	—
国	総合	100.0	0	1.0	0	-0.7	...	1.7
	生鮮食品を除く総合	92.6	-0.4	1.4	0.2	-0.3	...	2.8
	(生鮮食品)	(7.4)	(4.8)	(-2.8)	(-3.0)	(-7.9)	(...)	(-11.6)
	特殊分類	農水畜産物	14.2	1.5	-1.6	-1.5	-4.2	— 5.3
		工業製品	45.2	-1.1	1.2	0.3	-0.7	2.2
		うち大企業性製品	21.3	0.1	0.2	0	0.1	2.0
		中小企業性製品	23.9	-2.3	2.3	0.6	-1.4	2.3
		サービス	34.0	0.7	2.0	0.2	0.2	3.6
	季調済	総合	100.0	0.4	-0.1	0.4	-0.3	—
		生鮮食品を除く総合	92.6	0.4	0.1	0.2	0.1	—

(注) 1. 総理府統計局調べ(55年基準)。

2. \*は速報。

石、木材が減少した一方、原油が入着集中から5か月振りに増加となったほか、食料(小麦、とう

もろこし等)、羊毛も増加した。

## 国際収支

(単位・百万ドル、カッコ内は貿易収支季調後の計数)

	56年	57年		57年			前年同月
	10~12月	1~3月	*4~6月	*5月	*6月	*7月	
経常収支	1,860 (1,031)	△ 912 ( 915)	2,355 (2,546)	76 ( 518)	1,738 (1,015)	1,411 ( 765)	940 ( 494)
貿易収支	5,685 (4,856)	2,439 (4,266)	5,135 (5,326)	1,301 (1,743)	2,437 (1,714)	2,329 (1,683)	2,375 ( 1,929)
輸出	39,122	34,994	35,213	11,406	11,669	11,921	13,360
輸入	33,437	32,555	30,078	10,105	9,232	9,592	10,985
貿易外収支	△ 3,352	△ 2,883	△ 2,540	△ 1,163	△ 638	△ 806	△ 1,248
移転収支	△ 473	△ 468	△ 240	△ 62	△ 61	△ 112	△ 187
長期資本収支	△ 3,063	△ 5,805	△ 4,561	△ 567	△ 2,019	△ 1,959	△ 1,497
本邦資本	△ 6,864	△ 7,435	△ 6,566	△ 1,987	△ 2,500	△ 2,794	△ 2,335
外国資本	3,801	1,630	2,005	1,420	481	835	838
基礎的収支	△ 1,203 (△ 2,032)	△ 6,717 (△ 4,890)	△ 2,206 (△ 2,015)	△ 491 (△ 49)	△ 281 (△ 1,004)	△ 548 (△ 1,194)	△ 557 (△ 1,003)
短期資本収支	548	865	△ 2,676	623	△ 982	214	△ 457
誤差脱漏	△ 718	2,561	1,502	1,139	△ 205	△ 165	233
総合収支	△ 1,373	△ 3,291	△ 3,380	1,271	△ 1,468	△ 499	△ 781
金融勘定	△ 1,373	△ 3,291	△ 3,380	1,271	△ 1,468	△ 499	△ 781
外貨準備増減	423	△ 1,172	△ 1,744	△ 264	△ 1,056	182	△ 323
その他の	△ 1,796	△ 2,119	△ 1,636	1,535	△ 412	△ 681	△ 458
外貨準備高	28,403	27,231	25,487	26,543	25,487	25,669	27,514
為銀対外ポジション	△ 39,545	△ 41,342	△ 41,394	△ 40,516	△ 41,394	△ 43,689	△ 38,726

(注) 1. 短期資本収支は金融勘定に属するものを含まない。

2. 金融勘定の△印は純資産の減少。

3. \*印は暫定。

## 輸出入指標の推移

(季節調整済み、単位・百万ドル)

	国際収支ベース			通関		輸出 信用状
	輸出	輸入	貿易じり	輸出	輸入	
56年10~12月平均	12,503 (+ 0.2)	10,884 (+ 5.9)	1,619	12,684 (+ 0.3)	11,920 (+ 4.4)	8,312 (- 1.4)
57年1~3月平均	12,503 ( 0.0)	11,081 (+ 1.8)	1,422	12,707 (+ 0.2)	12,200 (+ 2.3)	8,010 (- 3.6)
*4~6月	11,766 (- 5.9)	9,990 (- 9.8)	1,775	11,879 (- 6.5)	10,933 (- 10.4)	7,914 (- 1.2)
57年*4月	12,319 (+ 4.5)	10,450 (- 1.4)	1,869	12,441 (+ 2.4)	11,695 (- 3.8)	7,753 (+ 0.3)
*5月	11,676 (- 5.2)	9,933 (- 4.9)	1,743	11,678 (- 6.1)	10,667 (- 8.8)	8,102 (+ 4.5)
*6月	11,302 (- 3.2)	9,588 (- 3.5)	1,714	11,519 (- 1.4)	10,438 (- 2.2)	7,887 (- 2.7)
*7月	11,222 (- 0.7)	9,539 (- 0.5)	1,683	11,381 (- 1.2)	10,559 (+ 1.2)	8,026 (+ 1.8)

(注) 1. カッコ内は対前期(月)比増減(-)率(%)。

2. 輸出信用状接受高は特殊大口を除く。

3. \*印は暫定。